



50周年運動指針

HOUKI MIRAI SOUZOU UNDOU

# 伯耆みらい 想造 運動

想像力を源泉とした知恵と工夫あふれるまちづくり

“想造”とは

私たち一人ひとりが未来を  
真剣に考え、想い描き、創  
り上げたいという“想像”と  
“創造”を併せ持つ造語です。

すべては未来のために

## I N D E X

はじめに	・・・・・・・・・・	0 1
私たちの目指す 「明るい豊かな社会」とは	・・・・・・・・・・	0 2
私たちの住む地域の 豊かな未来を目指して 「伯耆みらい“想造”運動」	・・・・・・・・・・	0 4
伯耆みらい“想造”運動イメージ図	・・・・・・・・・・	0 7
おわりに	・・・・・・・・・・	0 8

## はじめに

伝統とは、形を継承することをいわず

その魂、精神を継承すること。

(社)米子青年会議所は、創立50周年の節目の年を迎えます。1958年「今こそ我々青年は、我々の対社会的エネルギーに自信と自負をもち、そしてこの自覚を集結して、社会を我々の希望する方向へ規定すべきである」と声を上げ、14名の若者によって立ち上げられました。それ以来、地域の正しい発展を展望し「明るい豊かな社会」の実現を目指し、奉仕、修練、友情を信条とした「まちづくり」の団体として、地域の人々と共に様々な運動を展開してまいりました。

創立20周年時(1978年)「はてしない ゴールをめざし いま活動から運動へ」のスローガンのもと、児童センター建設促進運動、青少年教育キャンプ場設置運動、ネパール国王戴冠記念時計塔建設に伴う時計の贈呈運動を行い、創立25周年時(1983年)には、「健康をテーマとしたまちづくり」の提言をし、「健康博」推進運動を展開いたしました。創立30周年時(1988年)には、米子をグローバルな視点から総合的にまちを創っていくための機関として米子総合研究所の設立、創立35周年時(1993年)には、再度25周年時の理念を尊重し「健康をテーマとしたまちづくり」を一層アピールするためのイベントとして、「ヘルスポ'93」を開催いたしました。そして、創立40周年時(1998年)には、「心のやさしさをキーワードとしたまちづくり」をテーマに掲げ、「地域(まち)づくり」「人間(ひと)づくり」「地球(ほし)づくり」を提唱し、記念事業として「車いす利用者用駐車施設の確保に関する条例」の制定運動を行いました。

私たちは、地域のまちづくり団体として地域の人々や行政と連携しながら、社会形成の一翼を担ってきました。私たちの想いは、今も昔も変わることなく、愛する我がまちの更なる発展のためにあります。その想いを形にするために、関わりあうすべての人々と共に今後も運動を展開してまいります。そして、50年続いてきた米子青年会議所のよき伝統を継承し、今こそ英知と勇気と情熱を集結し、更なる半世紀を築いてまいりたいと考えます。

## 私たちの目指す

### 「明るい豊かな社会」とは

バブル崩壊後の日本経済は、底を打ったと見られる1993年以降も、必ずしも順調に回復することにはなりません。2006年には「いざなぎ景気」を超える景気の拡大が確認されましたが、地方においてはそのような実感が持てないのが現状ではないでしょうか。近い将来において労働人口や消費が減少することで、人口が集中する都市部と過疎化の進む地方との経済格差は、今後更に広がっていくことが予想されます。私たちは、地域の人々の生活基盤を確保し、より豊かで幸せな生活の実現のために、今後も地域経済の活性化に重点を置き、取り組んでいかなければなりません。

その一方で、精神的な豊かさについて考えることも必要ではないでしょうか。携帯電話やパソコンなどの情報技術の進歩により、人々との係わり方が劇的に変化している現代社会は、動機が理解できない凶悪犯罪や自ら命を絶つ人が増加している社会でもあります。理性や寛容性に欠ける人が目立つようになり、自己中心主義が散見されています。まさに心が開放されすぎて暴走している状態といえるのではないのでしょうか。私たちは、そのような心のあり方などの問題にもさらに取り組んでいく必要があります。

これまでのまちづくりは、右肩上がりの経済成長に支えられ、国の均一的な政策に頼り、行政主導のもとで進められてきました。その一方で、地域独自の文化や地域らしさが失われつつあるのも事実です。このことは、自らの考えを止めてしまった、まさに人任せのまちづくりを行ってきた結果ではないのでしょうか。更に、道州制が議論されているように、国の権限、財源の多くが地方に委譲される時代がすぐそこまでやって来ています。このような時代に立ち向かうには、私たち地域住民一人ひとりが、今まで以上にまちづくりに対する参画意識

これからのまちづくりの出発点は「想像力」



私  
たち  
(社)米子青年会議所は豊かな心と豊かな経済を育み、  
未来へ向かって夢と希望の架け橋をはっきりと描ける社会を目指します。

を高く持ち、自己決定・自己責任によるまちづくりに向けた準備をしなくてはなりません。

これからのまちづくりの出発点は、未来を思い描くことから始まる「想像力」が、キーワードになると考えます。その想像力が、私たち地域住民一人ひとりが持ち得る知識や技術に「知恵と工夫」といった翼を与え、大きな飛躍の原動力となるはずですが、このような「想像力を源泉とした知恵と工夫あふれるまちづくり」によって、豊かな心と豊かな経済を育み、未来へ向かって夢と希望の架け橋をはっきりと描ける社会こそが、私たちの目指す「明るい豊かな社会」なのです。



私たちの住む地域の豊かな未来を目指して

私たちの住むこの地域は、かつては伯耆の国と呼ばれ、豊かな自然を背景に、神々と人々が織りなす神話空間で彩られ、古代弥生びとの敬虔な豊かなころがあったといわれています。そして、日本海・中海・大山・日野川の豊かな自然の四季折々の表情、温かい人情などといった、全国に誇ることができる「ふるさとの宝」がたくさんあります。このような歴史・文化・自然が融合した独自のアイデンティティーは、私たちでしか持ち得ないオンリーワンの魅力ではないでしょうか。

私たちは、米子を中心とした広域地域を伯耆という枠組みで見直し、伯耆エリアで連携を図り、そして「ふるさとの宝」それぞれの魅力を最大限に生かしながら、「3つの柱」を軸に、「想像力を源泉とした知恵と工夫あふれるまちづくり」を活動のキーワードとして、私たちの住む地域の豊かな未来を目指していきます。

### 活動のキーワード

想像力を源泉とした知恵と工夫あふれるまちづくり

#### <3つの柱>

1. つたえらいや 伯耆の魂 こころ
2. つくらいや 伯耆の安 やすらぎ
3. ひろげらいや 伯耆の環 つながり



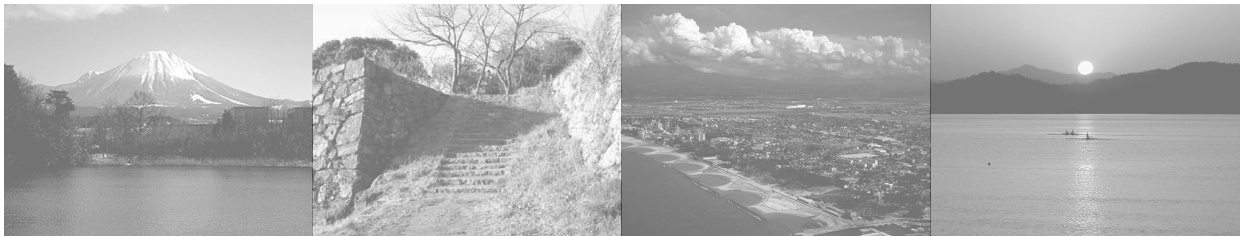
## 三つの柱

### つたえらいや 伯耆の魂<sup>こころ</sup>

# 1.

私たちの住む地域の歴史や文化、そして自然が融合するすばらしい育みは、私たちでしか持ち得ない価値ある資産です。

私たちは、先人たちの豊かな暮らしに想いを馳せ、何代も前から脈々と受け継がれている育み、そして伯耆の美しい原風景を見つめ直し、私たちの誇りを未来へ伝えます。



### つくらいや 伯耆の安<sup>やすらぎ</sup>

# 2.

人々の暮らしや人生にとって「安心して暮らしていける」ということは、人が幸福であることの基本となる要素です。そして、安心できる地域にするためには、地域住民自ら地域の安心を守ろうという考え方が必要です。

私たちは、自ら考え行動するための人間力を高め、様々なふれあいによって心にゆとりを育み、心から安らげる地域を創ります。



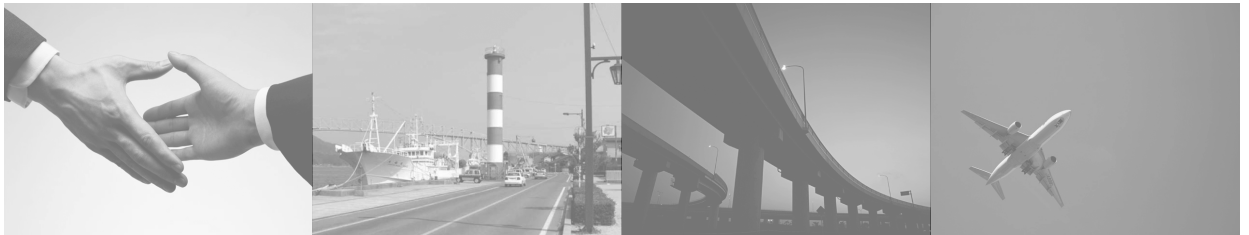


### ひろげらいや 伯耆の環<sup>つながり</sup>

# 3 .

私たちの住むこの地域は、南北を繋ぐ米子道、東西に走る山陰道、国際貿易の拠点である境港、国内外を結ぶ米子国際空港や米子駅などを有する山陰の玄関口であり、交流の拠点として発展してきました。様々な人たちが集い、そして「人を温かく迎え入れる」人情を持ちえた地域でもあります。

私たちは、地域の活性化を推進するために、大山・中海・宍道湖圏域の連携を図りながら、日本国内、環日本海、そして世界との交流を促進します。



実践しよう 「伯耆みらい“想造”運動」を

実現しよう 「明るい豊かな社会」を



# 明るい豊かな社会

豊かな心と豊かな経済を育み、未来へ向かって夢と希望の架け橋をはっきりと描ける社会

伯耆  
みらい  
”想造“  
運動  
イメージ  
図

豊かな心

豊かな経済

つたえらいや  
伯耆の  
**魂**  
こころ

つくらいや  
伯耆の  
**安**  
やすらぎ

伯耆みらい”  
想造“  
運動

ひろげらいや  
伯耆の  
**環**  
つながり

想像力を源泉とした知恵と工夫あふれるまちづくり

私たちの未来は

私たち一人ひとりがつくるものです

その責任と自覚を持って

今こそ立ち上がらなくてはならないのです

私たちは

伯耆の豊かな未来をつくるために

おわりに

会員一人ひとりの

“想造”する力を集結させ

運動を展開していきます

これから生まれてくる子どもたちが

「ここで生まれて本当によかった」と

心からそう想えるために

すべては未来のために。